修学旅行新聞

発行所　財団法人
全国修学旅行研究協会
発行人　前田　寛
東京都千代田区西神田
2丁目8－7（幅ビル）
電話（262）2426・2932
振替（東京）6－36337

修学旅行は、学習を社会に移したもので、生活指導及び集団訓練の好機会であり、教育計画の一環として行う学校教育上極めて重要な行事である。
従って修学旅行を安全かつ有効に実施するための企画及び運営を科学的に調査研究して、常にその改善に努力しつつ教育効果の充実向上を図る事は必要であり教育界に課せられた責務でもある。
（財団法人　全国修学旅行研究協会の趣意書から）

関東・東海・近畿三地区公立中

修学旅行連合委　総会開く

会長に大島直樹氏

総会で全修協山本理事長があいさつ

関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会（土居克己会長・西宮市立大社中学校長）は、本年度総会を七月十二日名古屋市王山会館で開催し、今年度の役員を選出、事業計画等を決定した。

総会は十四時三十分、簑野昌治委員（桜井市立桜井中学校長）の開会の辞で始まり、土居会長、顧問の全修協山本種一理事長がそれぞれあいさつを行った。

土居会長は、昨年度会務実績を述べながら全修協の協力に謝意を表し、顧問の山本理事長は、教育改革の四つのねらいをいかに達成するかが今後の課題で、結束を固め研究活動による実現を目指して精進されたいと強調された。

次いで、大友恭運営委員（全修協大阪事務局長）から本委員会の沿革について紹介があり、関東、東海、近畿の各地区修学旅行委員会の共通の問題を解決するため、昭和四十七年本委員会の前身である三地区連絡協議会が結成され、以来、全国修学旅行研究大会等の数々の実績を挙げながら着実に発展してきたことを報告した。

土居会長を議長に議事に入り、各地区修学旅行委員会、及び本委員会の昨年度の会務報告が行われ、承認された。

協議事項に移り、各地区ごとに別れて新役員候補者を推薦し、議長が一括して別掲の名簿を発表、満場一致で承認した。新旧役員を代表して土居前会長、大島直樹新会長（名古屋市立冨士中学校長）があいさつを行い、土居前会長は、事務的な仕事（修学旅行の輸送割付等）から研究活動（修学旅行全国大会等）をも手掛け思い出が深い。七年間の協力に対し感謝された。大島会長は、修学旅行は数々の問題をかかえているが各位の協力で重任を全うしたい。差し迫った第七回全国修学旅行研究大会への全力傾注の決意を示された。

あいさつする大島新会長

議長を大島会長と交代、本年度事業計画案の審議に入り、一、全国修学旅行研究大会協賛の件、二、修学旅行安全対策実態調査の件、三、修学旅行実施報告提出の件、の三件が提案され、一、二については承認、三については、東海、近畿の各修学旅行委員会では、後日委員会の場で、前向きに検討するとの条件を付し承認された。

阿部豊副会長（宇都宮市立一条中学校長）の閉会の辞で十六時三十分終了した。

本年度の役員は次のとおり（各中学校長、敬称略）。

会長＝大島直樹（愛知・冨士）
副会長＝阿部豊（栃木・一条）簑野昌治（奈良・桜井）
顧問＝山本種一（財全修協）
参与＝前田寛（財全修協）
運営委員＝関東・布目雅之（埼玉・千間台）東海・荒木務（三重・西橋内）近畿・土居克己（兵庫・大社）大友恭（財全修協）
委員＝《関東》加瀬忠（茨城・水戸一）青柳蔚（栃木・国本）竹内進（群馬・月夜野一）布目雅之（埼玉・千間台）佐藤時昭（千葉・栗ヶ沢）《東海》渡辺宏（岐阜・精華）和田恢（愛知・新郊）荒木務（三重・西橋内）《近畿》高橋喜吉（滋賀・彦根東）原英雄（京都・長岡三）吉田素彦（大阪・深井中央）黒沢文雄（兵庫・潮見）辻光昭（奈良・曽爾）北口了（和歌山・箕島）《全修協》大友恭、中島和友、兼子勉、北條直樹
特別委員＝成石昌蔵（埼玉・前川越一）佐々木達三（京都・前長岡四）
事務局長＝糸賀英一（全修協）

時言

修学旅行の一校一館を考える

編集委員　中島和友

旅行の成否は、宿舎の良し悪しによって大きく左右される。修学旅行の場合も、できるだけ早い時期に計画を立て、学校のねらいに最適の宿舎を予約すべきで、定宿に毎年宿泊できれば理想的である。

自然教室など、公共施設を利用する場合、全館貸切りが可能で、施設の機能をフルに使って、教育的なねらいの達成をめざすことができる。一方、修学旅行は必ずといってよいほど、旅行業者を通じて民営の宿舎を利用することになるため毎年同じ所に宿泊できるとは限らない。

また、一校一館を希望していても、高校や私立校はともかく、在籍児童・生徒数が年々減少する公立の小・中学校では、以前と同じ条件で宿泊することは難しくなって来ている。

他校との同宿で、学校側が最も頭を悩ますことは生徒指導上の問題である。また、売店・自動販売機・娯楽施設・館内放送・消灯など、扱いの相違でトラブルを起こすことが少なくない。

学校側にとって、一校一館は教育的に都合のよいことは当然であるが、受け入れる旅館側の立場では、私企業である以上、売上高の確保が必要で、定員に満たなければ、それなりに料金を割り増すか、同宿客を受け入れることになる。

社会的状況の変化は、修学旅行における一校一館を固執していられない情勢である。その顕著な例が、京都と東京であろう。京都には年間百二十万以上の修学旅行客、三千八百万を超える観光客が集中し、東京では本郷地区などで宿舎の減少傾向が続いている。

一校一館に固執するため、東京ではビジネスホテル利用が増加する一方、宿泊地を八王子、船橋、草加、つくば、潮来と近郊に確保する学校も増えた。ビジネスホテルの場合は、個室ないしは二人部屋など、教育的にみて問題が多い。宿泊地を近郊に求める場合も、近郊とはいえ、高速道路の渋滞が慢性化し、初めの目的である都内見学に大きな支障を来すことになる。

大規模学生宿舎廃業の大きな原因は、一校一館主義とシーズン集中にあるとさえ言われている。夏休みに入って東京・本郷へ来る修学旅行生は、一校一館、三連泊も可能で、都内をゆったりと見学し、夜は東京ドームで都市対抗野球の応援合戦を楽しんでいた。

さて、他校と同宿する場合は、棟別あるいはフロア別などの工夫がなされている。また、食堂や浴室を始め、売店等の利用に際しても、時間差を設ける一方、付添教員のパトロールなど、学校側で配慮していることが多い。

他校との接触から起こるトラブル回避も必要だが、この際一歩進めて、同宿校と交歓会をもつなど、積極的な取り組みはできないものだろうか。昨年の全国修学旅行研究大会において、西宮市深津中が、実行委員だけとはいえ、交流会を行って成果をあげた例を、六月のこの欄で取り上げたが、これらを端緒として更に進めることはできないものか。

学校は閉鎖社会だと言われることがある。修学旅行は学習の場を校外に求めることにおいても、社会的な触れ合いの絶好の機会である。見学場所・旅館等での人々との対応等、閉ざされた学校から、開かれた社会への視野の拡大に、大いに役立つものである。まして同宿校は、同じ世代に生きる仲間である。それぞれの人間的触れ合いは、有意義なものになるに違いない。旅行中の引率者の負担と責任は重いが、同宿校を回避するだけではなく、その場合も、積極的な活用を考えたいものである。

児童数減少は小三まで

文部省学校基本調査から

文部省は八月三日、平成二年度学校基本調査の速報を発表した。これは全国の学校を対象に毎年五月一日現在で調査を行うもので、修学旅行と関係の深い学年別の「在学者数」は、高校一年生をピークに、小学校三年生まで減少の傾向が続いている。

（関連記事2面に）

第5回全修協修学旅行セミナー

9月7日　京都で開催

本年度のセミナーを、左記の要項で開催します。

主催　財団法人全国修学旅行研究協会
後援　文部省
日時　9月7日　13時30分
会場　京都市アバンティホール（京都駅南口前）
テーマ　21世紀を展望した修学旅行の教育的課題
内容(1)基調提案（財全修協）
(2)講演　文部省担当官
(3)研究協議
(4)記念講演　NHK京都放送局　チーフアナウンサー

全修協支部長人事

静岡県支部長に石川欽士氏

財団法人全国修学旅行研究協会の支部長に八月一日付で次の各氏が就任した。

石川氏は静岡県立掛川西高等学校を卒業、昭和二十九年から静岡県教職員互助組合に勤務、昭和五十九年四月から事務局長を経て平成二年六月常務理事に就任、現在に至る。

島根県支部長に川角尊慈（かわすみたかし）氏

川角氏は昭和二十三年島根師範学校を卒業、仁多郡・松江市の小学校教諭、昭和四十八年モスクワ日本人学校長、五十一年県教育委員会指導主事を経て県下小学校長を歴任し、平成二年六月島根県学校生活協同組合専務理事に就任現在に至る。

風紋

暑い。ヨーロッパの感覚からすると、日本の夏は亜熱帯に属するらしい。立秋は過ぎたが、「暦は四十五日先取りと考えたらよい」と、「お天気博士」の倉嶋厚さんが書いている。残暑というよりむしろ盛夏だ▼ツクツクボウシが鳴きだした。「生物季節観測」によれば、水戸のセミの初鳴日は、ヒグラシの七月三日が最も早く、ツクツクボウシは八月五日から十日ごろだという。平野に生まれ、梅雨明けごろから高原に移動していた赤トンボも、そろそろ都会に姿を見せはじめるころだ。「風の音にぞ驚かれぬる」（古今集）と詠んだ古人もいるが、自然の動きや季節の移り変わりは、動物の方が鋭く感じとるのだろうか▼「花の万博」の「三和みどり館」では、蝶の不思議な旅を映像でとらえている。カナダから、ナイヤガラの滝を越え、メキシコに至る三千キロに及ぶ壮大な旅である。ツバメなどの渡り鳥のことはよく知られるが、暖を求めて南へ移動する蝶の旅を追った例は珍しい。蝶の名は「オオカバマダラ」。その旅は生物学上の奇跡とされている▼事故が続いた「花の万博」も全国各地や海外から多くの人々を集めて、にぎわっている。大人も子供も、「花と緑」を、楽しむとともに、テーマの「人間と自然の共生」についての理解も深めたのではないか。折から地球環境を問う声もひときわ大きくなってきた▼夏休み。旧盆。それぞれに目的をもった人々の旅が続く。「幾山河越えさり行かばさびしさの　はてなむ国ぞ今日も旅ゆく」（若山牧水）

（北）

信頼される旅づくり

修学旅行は、プランニングから実施まで、安全で意義深いものでなければなりません。近畿日本ツーリストでは、修学旅行に必要な事項をキメ細かく網羅した全国地域別「企画書シリーズ」を作成し、ご活用いただいております。さらに、北海道から沖縄まで、修学旅行・ビデオテープ「学習の旅シリーズ」もご用意。学校の教育方針に沿いながらも、生徒ひとりひとりの心に輝く想い出づくりのため、国内・海外のネットワークを駆使して、細心の努力をいたします。

ツーリストの修学旅行。

近畿日本ツーリスト　本社 〒101 東京都千代田区神田松永町19-2
支店／国内250店（登録）／海外15店　運輸大臣登録一般旅行業第20号

学年別在学者数は

公立校で減少が顕著 私立校では増加の傾向

――文部省の調査から――

文部省の学校基本調査によると、本年度の学年別在学者数は下表のとおりである。

高校への進学率が95・1％と過去最高を示したこともあり、小・中・高を通じて在学者が最も多いのは高校一年生である。以後毎年在学者数は減少の一途をたどるが、小学三年生から下は横ばいとなっている。しかし、年齢別人口からみて、その後は再び減少の傾向が続くことになろう。

義務教育の最高学年である中学三年生を100とした指数で示すと、高校一年生は102、中学一年生は93、小学一年生は81となり、公私立校別では、公立校の減少が著しく、都道府県別では大都市圏の都府県の減少が目立つ。

一方、私立校は小・中・高の人員の格差は大きいが、いずれも在学者数は年々増加の傾向にあり、また私立校の特長として、大都市圏集中と女子の多いことが挙げられる。私立校では、児童生徒数の確保が、学校経営上不可欠の要件であろう。

平成２年度在学者数　（単位：万人）　（　）内はうち私立

学年／校種	計	1	2	3	4	5	6
小学校	(6) 937	(1) 150	(1) 151	(1) 151	(1) 155	(1) 162	(1) 168
中学校	(20) 537	(7) 173	(7) 178	(6) 186	－	－	－
高等学校	(161) 562	(55) 189	(54) 188	(52) 182	3	専攻科 別科 1	

京都への修学旅行

昨年は123万5千人に 小・中は減少、高校は微増

京都市観光調査年報から

京都市文化観光局は、「京都市観光調査年報（平成元年）」をまとめ、このほど発表した。

それによると、昨年一年間に京都市を訪れた観光客は三千八百六十二万人で、前年（昭和六十三年）より十万五千人、0・3％減少した。このうち修学旅行客は百二十三万五千人で全体の3・2％を占め、前年より二万人、1・6％の減となったが、前回の十二万六千人減に比べると、かなり小幅の減少といえよう。

小・中学校については、学校数・人数とも減少しているが、高等学校の五十五校・一万二千人増が大いに貢献した。

月別の修学旅行客数（報告分）は右下の表のとおりで、春に小・中学校、秋に高校が集中している。

出発地別では、関東49％、中部20％、東北9％の順で、中学校は関東からが68％、小学校は中部からが54％と、例年と余り変わらない。また、北海道と東北からは、ほとんどの高校が京都を訪れているとみてよい。

次に、訪問地調査では、修学旅行生に当たる年齢層十九歳までをみると、清水坂周辺、金閣寺、嵐山、二条城、新京極がベスト5で、他の年齢層よりも高率を示しているのは三十三間堂、竜安寺、太秦映画村、京都タワーなどである。

同じく年齢層別のみやげ品のランクでは、八ツ橋、生八ツ橋、装飾調度品が上位を占め、他の年齢層で高率の漬物は今一つであった。

今後、小・中学校の児童・生徒数は更に減少の傾向が続くが、高校の数字に回復の兆しが見られることは、目的地の見直しが行われていると考えてよいだろう。その影響もあって、月別では九・十月の増加が著しく、春のシーズンを含む三月から八月までの各月は、いずれも前年より減少している。

今年の秋には第二回生涯学習フェスティバルが京都市で開催され、更に修学旅行のメッカとしての地位が不動のものになるものと考えられる。

修学旅行客数　上段'88年、下段'89年（単位：校、千人）

区分	総数 校数	総数 人数	小学校 校数	小学校 人数	中学校 校数	中学校 人数	高等学校 校数	高等学校 人数
報告分	5,320 5,136	1,135 1,133	1,120 1,090	114 107	2,490 2,281	591 577	1,710 1,765	430 449
推計分	—	121 102	—	20 12	—	61 57	—	40 33
総人数	—	1,256 1,235	—	134 119	—	652 634	—	470 482
計 割合（%）	100.0 100.0		10.7 9.7		51.9 51.3		37.4 39.0	

（説明）報告分とは宿泊施設からの報告分を集計したものであり、推計分とはそれ以外の宿泊施設について類以規模の施設を参考に推計したものである。

月別修学旅行客数（報告分）　（単位：校、千人）

区分	総数 校数	総数 人数	小学校 校数	小学校 人数	中学校 校数	中学校 人数	高等学校 校数	高等学校 人数
1月	14	3	－	－	1	－	13	3
2月	51	13	1	－	23	6	27	7
3月	159	33	2	－	49	11	108	22
4月	877	157	265	23	582	128	30	6
5月	1,100	228	348	36	720	187	32	5
6月	604	169	140	15	432	148	32	6
7月	153	42	1	－	118	34	34	8
8月	37	11	－	－	3	1	34	10
9月	458	88	81	7	155	25	222	56
10月	922	206	184	19	131	22	607	165
11月	627	148	59	5	61	13	507	130
12月	134	35	9	2	6	2	119	31
計	5,136	1,133	1,090	107	2,281	577	1,765	449

（説明）この表は、1989年の報告による修学旅行客について月別にあらわしたものである。

修学旅行客の年次推移　（単位：千人）

年次	総数	小学校	中学校	高等学校
昭和58年	1,349	156	682	511
昭和59年	1,456	182	704	570
昭和60年	1,445	183	690	572
昭和61年	1,429	174	696	559
昭和62年	1,382	169	690	523
昭和63年	1,256	134	652	470
平成元年	1,235	119	634	482

会長に三塚氏、理事長に梶本氏

㈶日中青少年旅行財団

㈶日中青少年旅行財団（二階堂進会長、森喜朗理事長）は、八月二日東京・航空会館において理事会を開催し、評議員及び会長・理事長・専務理事の選任、顧問の委嘱などを行った。

主な新役員は次のとおりである（敬称略）。

▽会長＝三塚博（衆議院議員・元外相）

▽理事長＝梶本保邦（社）日本観光協会会長）

▽専務理事＝田敏夫（重任）

▽理事・事務局長＝村上司郎（重任）

▽顧問＝二階堂進、森喜朗

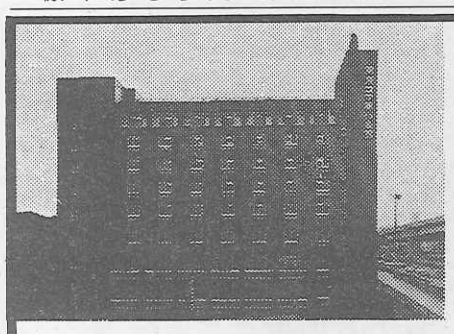
なお、㈶全修協山本種一理事長は、引き続き理事に選任された。

修学旅行のサービス向上を

近畿日本ツーリスト協定旅館連盟　修学旅行部会開く

近畿日本ツーリスト協定旅館連盟は、七月十九日東京において修学旅行部会を開催、現在実施中の「修学旅行サービス向上キャンペーン」を中心に、種々の研究協議が行われた。

当日は同部会石井常雄委員長（京都・石長旅館）以下会員・関係者約三百名が全国から参集し、キャンペーン標語入選発表、各地区の現状報告、メニュー研究会（京都）・自主研修研究会（東京）の研究発表の後、「君の思い出になりたい」――修学旅行におけるサービス改善向上はいかにあるべきか――をテーマのパネルディスカッションでは、様々な意見が交換された。



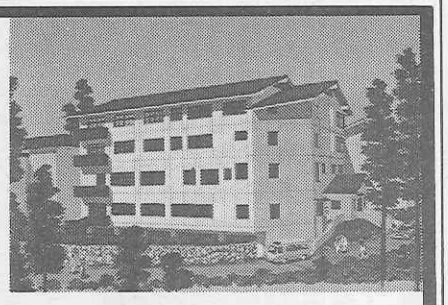
東京コマ旅行会館は
第８回優秀防火建築表彰で
建設大臣賞を受賞いたしました。
東京でのお泊りは
安全設備を誇る当会館へ。

東京タワー、国会議事堂を間近かに望む東京の中心にあり、８階建の近代ビルで、修学旅行の皆様に、より有意義な旅行をしていただくために、清潔で低廉に、しかも最新の設備をほどこした全館和室の観光旅館です。

ホテル〈全館和室〉
東京都港区六本木１丁目７番地
ＴＥＬ（03)585－1046(代表)

東京 コマ旅行会館

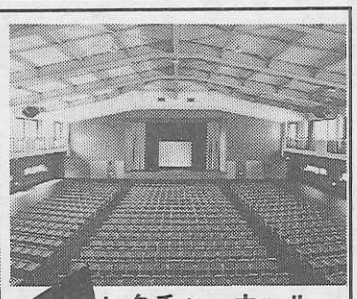
座禅体験で
〝心、リフレッシュ!!〟
清潔、安全、快適、
安心のお宿



本館	17室	194帖	120人
比叡	28室	260帖	200人
北嶺	15室	160帖	130人
計	60室	614帖	450人

〈国際観光旅館〉
比叡山 延暦寺会館
ＴＥＬ 0775－78－0047・0554
ＴＥＬＥＸ 5464－917
ＦＡＸ 0775－79－5053

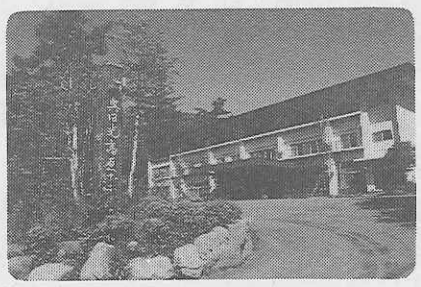
とびだせ自然へ
緑の箱根へ



レクチャーホール

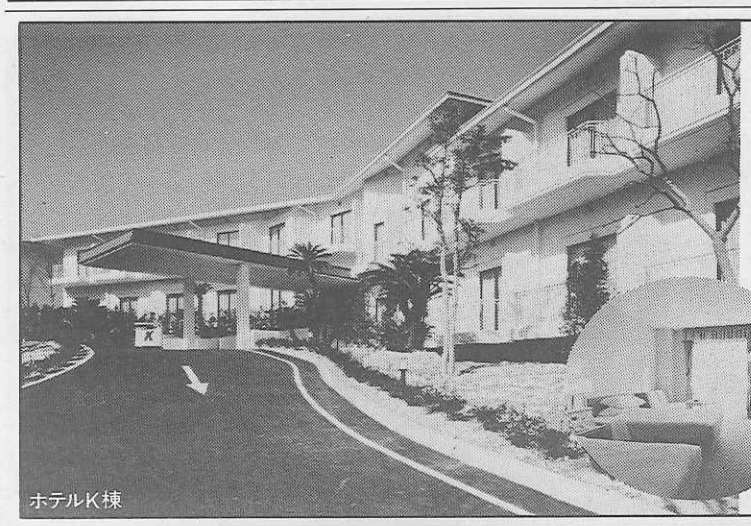
箱根高原ホテル
〒250-05 神奈川県箱根町元箱根164
電話0460-4-8595(代表)

●修学旅行／林間学校／スキー体験学習
奥日光の自然と仲間たちとの語らい……



夏は林間学校、冬はスキー
自然探勝の基地として日光国立公園内にたつ当ホテルをご利用ください
鉄筋3階建／小学生550名／中学生550名／高校生450名収容／大浴場あり

奥日光高原ホテル
〒321-16 栃木県日光市湯元温泉
TEL. 0288(62)2121(代表)



ホテルK棟

きっと、思い出いっぱいの旅になる。

修学旅行は、鈴鹿サーキットで体験学習。

見て聞いて、触れて学ぶ。ためになる体験をしたら、宿泊はリゾート感覚あふれる〈ホテルK棟〉をご利用ください。魅力的な施設・サービスが修学旅行を思い出深いものにします。学校団体用SPECIAL PRICEにてお待ちしています。

そのほか、北欧風のD棟・E棟・G棟・J棟、団体でのお泊りに便利なビレッジF棟など多彩な宿泊施設もご利用ください。

▲横G体験が新しいサイドフォース カート（モートピア）

体験学習のご案内
●エンジン教室●本田技研鈴鹿製作所工場見学
●モートピア●モータースポーツ観戦●地曳網
●潮干狩●伊勢形紙彫り●茶摘み●テーブルマナー 他

お問い合わせ・お申し込みは――
鈴鹿サーキット
〒510-02 三重県鈴鹿市稲生町7992 ☎(0593)78-1111
東京営業所 〒107 東京都港区赤坂２－17－22 赤坂ツインタワービル東館16階 ☎ (03)582-3221